

平成29年度授業改善推進プラン【美術】

〔教科の観点〕

①美術への関心・意欲・態度

②発想や構想の能力

③創造的な技能

④鑑賞の能力

教科	生徒の実態と分析	指導上の課題	授業改善の視点と方策
1年	授業評価は、「ややあてはまる」「あてはまる」が、ねらい<82%>、授業内容<80%>、意欲的<67%>、進め方の速さ<70%>、じっくり考える時間<66%>、考えの交流する時間<60%>、進め方の早さは、<70%>という結果だった。1学期に行った色彩、デザイン、鑑賞、図工と美術の違いなど基本的な学習だった。	2.3学期は、デザイン、工芸の課題もこなしつつ、引き続き色についての学習を行う。作品づくりを行う中で、アイデアスケッチという、自分と向き合う作業により多く取り組む。資料収集や提示を行う。生徒作品を常設し、身近な他者の作品に興味を持ち自分の制作の参考にさせたい。デザイン技法や構成美を学び、制作に意欲をもたせたい。	作品づくりの中で、アイデアスケッチ(じっくり考える時間)を通して個人の考え方を尊重する。体育祭、合唱祭などの応援旗やプログラム作りなどで美術が他の教科や生活との結びつきも気付くように指導する。
2年	授業評価は、「ややあてはまる」「あてはまる」が、ねらい<56%>、授業内容<60%>、意欲的<63 %>、進め方の速さ<56%>、じっくり考える時間<61%>、考えの交流する時間<45%>、進め方の早さは、<61%>という結果だった。1学期は、空想画と中心に鑑賞個性豊かな作品が完成したが、課題を苦手とする生徒もみられた。	2.3学期は、デザイン、工芸の課題に移行するが、アイデアを引き出すために工夫や美術や課題に苦手な生徒に対する、個に応じた指導が課題である。徒作品を常設し、身近な他者の作品に興味を持ち自分の制作の参考にさせ、自分の作品との差異を認識させる。デザイン技法や構成美を学び、技能的な面で苦手を感じる生徒にも制作に意欲をもたせたい。	意欲・関心が低い生徒に対する指導を継続して行っていく。アイデアスケッチを更に充実させていく。また、考えの交流を通して、自分のイメージをふくらませていく指導を行う。美術が苦手な生徒の気持ちに寄り添いながら、個に応じた指導を行う。
3年	授業評価は、「ややあてはまる」「あてはまる」が、ねらい<53%>、授業内容<50%>、意欲的<60%>、進め方の速さ<51%>、じっくり考える時間<55%>、考えの交流する時間<52%>、進め方の早さは、<56%>という結果だった。1学期は、日本の伝統、色彩、アイデア商品デザインなどにとりくんだが、アイデアが浮かびにくい状況。	日本の伝統、色彩を引き続きおこないながら、工芸、彫塑を、豊かな発想が浮かぶよう個に応じた指導をしていく。日本の工芸品の鑑賞をし、2.3学期制作する木彫や工芸制作に意欲関心を持ち、図案や彫る技術に反映させたい。また、デザイン技法や構成美も学び、技能面に苦手を感じる生徒にも制作する喜びを味わせたい。	個に応じた指導を丁寧に行う。アイデアスケッチを充実させる。その一部に模写やスケッチなども行う。アイデアの発信を生徒同士で発信させるとともに、イメージをふくらませるように指導を行う。